

書翰の部

- 一、新居格
 - 1 昭和二〇年一月六日時節柄執筆活動不能のため水産関係文献収集に意欲あり時節柄困難のことと思うが文化人閣下の会長時の基礎固めを望む
- 二、新井弘蔵
 - 1 昭和一六年二月二三日大政翼賛会事業の趣旨貫徹に尽力を願う念願の小学生農業訓練の着手喜びに堪えず
- 三、有馬頼寧
 - 1 昭和二八年一〇月二四日（下村宏宛）大政翼賛会改組を機会に引退するも傷心政治に未練あり政治の革新新体制の必要性を革新は団体に背くものではなく皇室・国家のためにあり何故赤と非難されるや近衛公当代第一の人物ながら天皇の側近であって政向きか「英雄待望論」必ずしも鶴見君だけではない
 - 2 昭和一七年五月一五日（有馬頼義宛一返書すべて義ちゃんと本人の責任であれば異義なし入宮後の六番町の留守の世話我がず忠節を尽くす兵士に対する気持ちで行う将来のこと内地に帰り除隊後相談母上に心配かけぬ様
 - 3 昭和二一年八月一三日（加藤敏一宛）度々の手紙を感謝大变革の時代農村漁村問題は重大性を持つ農村漁村文化協会の一層の努力が望まれる
- 四、原彪
 - 1 昭和一六年三月二八日翼賛会改組に当たり学兄退陣は遺憾今回の人事は政治力の後退と推察翼賛会は出発点に誤りあり有馬時の意図を徹底されるべきであった自己の踏み台に利用する運動家の一部には警戒を
- 五、細野三千雄
 - 1 昭和二年七月五日労働教育会臨時理事会（五月二三日）報告
- 六、船田中
 - 1 昭和二一年六月九日巢鴨拘置所入所中御機嫌伺い
- 七、古垣鉄郎
 - 1 昭和二四年一一月一六日ご提案の件同感芳書は「私達の言葉」で放送の価値あり
- 八、池田成彬
 - 1 昭和二四年七月二五日米国サミエル・フライマン氏からの写真転送
- 九、生田正吉
 - 1 昭和二六年一〇月八日小生福岡県三井郡会川村有馬家旧別邸購入せしもの売却時の土地面積等の確認致したく乞う返報の段
- 一〇、今村明恒
 - 1 昭和二年二月二九日東京帝国大学理学部地震学に研究費として震災共同募金五千円寄付決定の件御礼
 - 2 昭和二一年九月四日震災記念塔碑私案作成につきご高覧を

- 一一、稲富稜人
 - 1 昭和三一年一月二四日入院見舞返礼
- 一二、井野碩哉
 - 1 昭和一八年一月四日帝国水産株式会社設立の際種々ご迷惑あったと察するも重役陣は貴兄今後のご活躍に寄与することと確
- 一三、犬養毅
 - 1 昭和二年五月一九日明二〇日の閣下の慰労会先約のため欠席この際閣下を貴族院勅選に推薦の話あり
- 一四、入沢文明
 - 1 昭和一六年四月四日亡父病状報告
- 一五、石橋正二郎
 - 1 昭和二四年十一月一日三女啓子の縁談の件
- 一六、石黒忠篤
 - 1 昭和二年三月二七日大兄襲爵の件同封新聞記事を見て心配この際速やかに手続されることが最善
 - 2 昭和一五年五月二〇日「無雷庵雑記」礼状
 - 3 昭和二九年五月二五日久方振りに木戸侯と面談
 - 4 昭和三〇年十一月二〇日来春の参議院選全国区から出馬予定ポーランド元首相ミコライチク来日各地を案内勇々九州・四畿
疲労
- 一七、石井光次郎
 - 1 昭和年一月一二日歳暮御礼
- 一八、岩佐新
 - 1 昭和二八年八月一三日青木繁絵画の件お譲り頂きたい旨石橋より申し出あり
- 一九、岩田宙造
 - 1 昭和二七年四月七日追放解除慶賀の至り
- 二〇、賀川豊彦
 - 1 昭和二年三月二五日父上のご逝去を悼む政友会退会後社会事業に没頭の由私に代わって東京学生消費組合長を依頼いたし度
阪・神戸のセツルメントで多忙
 - 2 昭和一三年一月二八日今回統制商工組合法発布につき産業組合法との関連で相当問題あり消費組合の発達に妨害なきよう吉
相にご相談願ひ度
 - 3 昭和一四年一月五日先般来よりの「火災保険組合」の件金光拓相産組理解あり同氏占有「新日本」を手離すとのこと三
災保険会社が競争者として出現の模様石黒忠篤氏も火災保険組合賛成先手をとる決断を
 - 4 昭和二年一月二日三日（有馬貞子宛）日本協同組合同盟設立一年を経過東京組合総連合会も荷受け団体の許可を得るアメ
人からココア入手笑納されたし
 - 5 昭和二年一月 日丁重なる手紙に感激水平社よりのマ司令宛陳情書英訳して近日上京予定伯爵の為新約聖書一冊入手
 - 6 昭和二年二月一日（有馬貞子宛）国民栄養協会理事長職有馬伯が不自由の身の間専務理事の私が兼任しても可有馬伯に御
乞う

- 二一、 亀井貫一郎
 - 1 昭和二年一二月八日小生亀井茲常の分家のもの拝眉致したくご都合如何
- 二二、 荻田久徳
 - 1 昭和二年二月二八日小生復員帰還御不自由の身を痛恨禁じ得ず
- 二三、 加藤武雄
 - 1 昭和二年一月一八日歌集拝読窪田空穂氏に届け感想を依頼
 - 2 昭和二年二月二六日歌集草稿窪田氏の手元にあり今暫く猶予を
- 二四、 風見章
 - 1 昭和五年五月二一日「無雷庵雑記」贈呈礼状
 - 2 昭和五年六月四日太田氏の件昨日電話にて申し上げし通り但し村田氏には未だ通ぜず各方面に了解済み急速にて運びて可河郎氏来たり旧社大系中最低三人をと依頼申出あり別紙お届け申し上げ度なお三輪氏急に九州へ旅行したるにつき同氏の代人来る今に昭和研究会攻撃の養田氏の著書の広告ありどこかでいやがらせを策動しつつあるに非らずや小生も注意いたします故後藤君にも頂き度
 - 3 昭和五年二月二一日昨日午前近衛公と相談の節内務大臣に適任者を欠いたりとして改造急なる模様なきため形勢不明のと夕刻より多分木戸氏斡旋ならんか急に模様替えとなり昨夜半より今朝にかけて事を決したらしく定めて御意外とされたる事ならん御酌量され度尚昨日申し上げた翼賛会運動費不足分を機密費にてまかなうこと本日近衛公に進言
 - 4 昭和五年四月四日永井柳太郎氏を総務長とする案如何人が悪いようだがこの椅子に居らしめて事やりよかるべし
 - 5 昭和九年一月一七日贈品謝礼毎日新聞紙上座談会記事胸のすく思いで拝読
 - 6 昭和九年二月二四日警報発令中のため拝眉の機を得ず残念新春に上京
 - 7 昭和二十年五月三日小生先般住宅疎開を命ぜられ郷里に立ち退く人界異変甚大なれども田園自然はのどか新生活も一与あり
 - 8 昭和二十年九月四日貴書拝読まこと申しようもなき時局なり何れそのうち上京いたし拝眉のうえご高教仰ぎ且つ心事も申し
 - 9 昭和二十年九月二三日私見ながら満州事変以来の指導者の責は外から問われず内から問われるべし当地にて静観こそ正かる考えしばらく上京を中止
 - 10 昭和二十年一月七日ご意見深く敬服小生も戦争犯罪人の一人として嫌疑十分なるべし結果がでるまで当地を離れず客観はロシヤ・フランスの革命史を同巧異曲にて見る思ひす
 - 11 昭和二十年一月二四日地方農村ですら食糧問題深刻失業の圧迫は土地飢饉を招く帰農者の生活条件悪し現在の指導者がろろうと共産主義的運動が勝利を占めると予測苦難が我々の前途に待つ運命
 - 12 昭和二十年一月七日ラジオにて近衛公逮捕令を受けたる由おのが身を同じ運命に置かるべきかと思ひ上京を見合わせ
 - 13 昭和二年一月二六日目下郷里での農家翁となる日々わが民族が復興するには世界最低度の生活を甘受する決心が必要
 - 14 昭和二年一月二三日門外不出の生活三年長塚節「土」の素材そのままの生活
 - 15 昭和三年二月七日同僚で消息あるのは尊台あるのみ田舎にも流浪者増加物騒なる昨今なり
 - 16 昭和三年一月二三日貴著受領新米供出後新米背負って上京のつもり
 - 17 昭和六年一月五日来週上京の予定
 - 18 昭和六年一月一五日一八日は取手駅まで出迎え度
 - 19 昭和二年二月一九日手作りの米を上京する長男に託す
 - 20 昭和年三月五日久方振り総理官邸附近歩き感無量

- 二五、梶井剛
 - 1 昭和二年四月二〇日留守宅に伺いし折りトランプご入り用と聞き手許にあるもの御受領下され度小生昨今閑暇を得て学校力を入れ度
- 二六、加治室哲
 - 1 昭和二六年八月日暑中見舞
- 二七、木戸幸一
 - 1 昭和二年九月一三日ご出所の由小生相不変元気裁判遅々として進まず他人毎の様に悠々と構えて入る次第来年三月頃迄かかると予測次男孝彦御宅へ罷出とのこといかなる形で小生が訴追せられるか一五年五月の新党運動に重点を置かれてれる場合証人をお願い致し度当時の日記（昭和一五年四月一四日一六月一日）抜粋をお手許に差し上げます故お考え置き下さる様
 - 2 昭和二七年九月二五日選挙運動終末期ご多忙を推察今度初めて不在投票をさせられ今朝済ませたところ一歩娑婆に近づいたその反面釈放問題低調新内閣誕生後のことか日暮れて道遠しの感あり
- 二八、木村錦花
 - 1 昭和一八年一一月一四日拙著「守田勘弥」送付
- 二九、木村修吉郎
 - 1 昭和二五年四月二二日玉稿拝読なるべく原文のまま掲載予定但し橋本実斐・小泉信三等の掲載予定の為掲載は先のこと悪し
- 三〇、草繫全宜（金剛寺）
 - 1 昭和年一〇月一六日ラジオの御講演に感激地方巡回教師に宣布のためレコード又は印刷物御寄贈乞う
- 三一、高者浄観
 - 1 昭和一三年五月一三日（有馬貞子宛）幣山今度大阪府が新たに指定した一二史蹟中に加えられ折しも上人（西行）七五〇年来を迎え嬉しきこと
- 三二、熊谷恒子
 - 1 昭和二三年九月四日書道展出品の拙作目に止めていただき光栄目下大阪にて展示出品中につき戻り次第お届けいたしたく
 - 2 昭和二三年一一月一日本日便にて書お届け申し上げ度価額三千円也
 - 3 昭和二三年一一月六日早速に潤筆料お届けいただき光栄
 - 4 昭和二四年一月一日年賀
- 三三、倉富勇三郎
 - 1 昭和年一月一日昨日枉車御来臨恐縮拝顔のうえ御礼申上儀動作不自由のため失礼
- 三四、牧野伸顕
 - 1 昭和一九年一月一日年賀
 - 2 昭和一九年一月二日三〇日非常時下ご健勝の事と推察お届けの品ご厚情深謝配給時代の折食糧は新年に用い度く
- 三五、丸山義二
 - 1 昭和二五年四月一八日新居竣工農民文学の集まり昨年から開催先生中心の集まりを皆希望
 - 2 昭和年二月六日吉原さんから受信羽仁五郎氏に近日報告の予定
- 三六、松田基次郎

- 1 昭和十三年十一月一日農業報国連盟発会式の出席を深謝今後の農村教育・経営は満州・中支を考慮するのが肝要閣下のご現地見学を希望
- 三七、松前重義
 - 1 昭和年一二月日贈物御礼正月拝顔の上近況報告致し度
- 三八、松下高
 - 1 昭和年七月二日弊社コーン缶詰本日鉄道便で送付
- 三九、真崎勝次
 - 1 昭和年五月二日御本願の放送謹聴仕り候
- 四〇、三宅竜子
 - 1 昭和二年四月二六日（有馬貞子宛）父上様のご逝去を悔む
- 四一、宮本武之輔
 - 1 昭和一五年五月二日「無雷庵雑記」拝受近衛公並びに尊台の政治的理念を興味深く拝察日本の革新は政治の根本的思想や全面に亘ることで貴族院改革だけ論議するは無意味小生佐々木行忠侯に貴族院勅選議員中技術界の有能士を加えるべく申し入れ同成を得
 - 2 昭和年七月一七日（松前重義連名）近衛内閣の性格並びに新党運動の将来につき憂慮に堪えず急遽松前君と相談の上然るべを施したところ形勢必ずしも不利ならざるを喜ぶその後の情報を携え伺うもご不在なれば所見申上度近衛内閣に革新内閣たる性格ること新体制運動を促進すること等物事を淡泊に断念せずご推進の程
- 四二、宮崎■子
 - 1 昭和二四年一二月六日お手紙拝見久留米の野田夫人よくよく困窮の様子勝俣夫人と見舞い金送付近ごろの歌人うまく形を整えることの方が多し
 - 2 昭和三〇年一〇月日「ひとりごと」有益に拝見第一号から揃えたく竜介宛で送付願度
- 四三、三輪寿莊
 - 1 昭和二年六月一七日一日も早く出所されるよう高橋・近藤弁護士も協力当方戦災復興本部理事長退任弁護士に専心
- 四四、永井柳太郎
 - 1 昭和一五年七月二九日大兄よりの勧誘に基ずき民政党をして挙党新政治体制に参画の運動も町田総裁並び其の周囲の人々の立場と小生の微力の為予期した効果を取るも能わず党内の時局認識の対立表面化遂に小生等約四〇名脱党今後近衛公の新体制確力すべき方策につきご意見伺い度
 - 2 昭和一五年一〇月二〇日次回選挙に豊橋君福岡より立候補の希望ある由内々岡野君に申し伝え考慮を求め度現在旧民政系岡政友系増永及び東方会の稲富の三人の由有馬伯が出馬とあらば擁立で一致岡野・豊橋両君の人柄頗る好感両人も当選しうる方法をきもの新体制運動もご苦勞と拝察運動の前途を憂慮す
 - 3 昭和一九年十一月二九日御見舞深謝盲腸炎に復膜炎併発し入院（代筆）
- 四五、長与善郎
 - 1 昭和十三年六月一三日平山（北岡）豊三君就職の件
- 四六、中村孝也

- 1 昭和三〇年十一月二〇日「ひとりごと」御礼
- 2 昭和年一〇月二七日拜復「元禄時代観」は古本屋で入手次第ご通知
- 四七、中野家子
 - 1 昭和二六年一二月七日「暮らしの手帖」一五号原稿催促
- 四八、難波英夫
 - 1 昭和年四月一五日油絵二枚処分依頼
- 四九、野口幽香
 - 1 昭和四年一二月二七日（有馬貞子宛）バザー売り上げ成績上々純益千円に達す
- 五〇、岡幸三郎（代）
 - 1 昭和二六年月日博多かまぼこ発送通知
- 五一、太田保一郎
 - 1 昭和一一年一月一日贈物礼状
- 五二、笠信太郎
 - 1 昭和二八年一二月二〇日此程新築祝いに河井寛次郎の作品を送達
- 五三、斎藤実
 - 1 昭和二年六月八日（春子連名）四月二五日神戸発四五日目漸くゼノアに安着セネヴァにおける会議に出席予定
- 五四、柴藤タカ
 - 1 昭和年一二月七日（斎藤・緒方竹虎連名）福岡常盤館にて寄書き
- 五五、千石興太郎
 - 1 昭和二〇年一二月八日連合軍の召喚命令貴台まで及ぶとは意外何処まで飛大するや危険千万健康御留意被下度
- 五六、志賀直哉
 - 1 昭和一五年五月二〇日「無雷庵雑記」礼状
- 五七、島田俊雄
 - 1 昭和一六年五月二二日小生訳評「一八史略」改訂版御一読を昨年来の御心労を同情近衛公という特別な人物を相手に仕事た事御心境推察翼賛運動のあおりを受け小生用事なく閑居近々他人を交えず語りたく
- 五八、島野幸次
 - 1 昭和二四年一二月三〇日歌集「千帆」礼状
- 五九、下村宏
 - 1 昭和八年一月四日御母堂御逝去弔意
 - 2 昭和二五年三月三〇日小生目下「海南自叙伝」と「新方丈記」に老筆を続け居り大兄も昭和の新徒然草起草に御精進かと推
- 六〇、末次信正
 - 1 昭和一五年一二月二一日臨時中央協力会議所感組織・運営については一般的理解に到達憲法関係の法理問題・違憲という事

ぬと理解熱心な討議は在来の諸会議にない真剣さが横溢翼賛会の前途を期待

- 六一、杉山元
 - 1 昭和年七月目御来訪辱けなくご厚情深謝
- 六二、杉山茂丸
 - 1 昭和七年八月九日（進藤喜平太宛）拝復頭山氏とも相談種々入り組たる事情のため甚だ困難
- 六三、鈴木成高
 - 1 昭和二四年一月二日本日足利夫妻の御来訪にて高吟集拝受
- 六四、祥雲寺寿正
 - 1 昭和年三月二日（有馬家宛）慈院様御祥月御供之儀承知請仕
 - 2 昭和年七月二日（有馬家宛）大慈院殿御手書御公義経一部御高納珍重保管可仕御請迄
- 六五、田畑政治
 - 1 昭和三年一月二六日オリンピック選手団の派遣につき格別のご支援を深謝
- 六六、高橋三吉
 - 1 昭和年一月一〇日墨絵
- 六七、高島米峰
 - 1 昭和二年七月二九日暑中見舞
- 六八、打木村治
 - 1 昭和五年二月四日祖国を離れるに際しご高配を有難く東京駅での頼義さんはホームの華航海快適今朝未明大連に入港港君に会う本日ヤマトホテルに入り元気乞ご安心
- 六九、立野信之
 - 1 昭和六年二月一六日「政界道中記」御惠贈深謝拙著「公爵近衛文麿」の出版記念会御令息の出席恐縮「近衛伝」執筆に当は御教示預かるべきところ念願を達し得ず調査不足を後悔後編は人間近衛に重点を置き執筆のつもり御指導願ひ近日参上いたした
- 七〇、徳川義親
 - 1 昭和二年二月二四日今年は温かで梅が咲きだすも梅見る人はなし千石老元氣井川君共栄保険・開拓両社長と協同党幹事長忙新紙幣の発行で今後一人百円余で暮らすのは大変貴族院は閑日月なり
 - 2 昭和二年七月二八日闇市繁盛配給不円滑米国からの食糧放出なければ都会は餓死の様社会党大きくなるが未だ内部にゴタリ協同党も協同民主党となり井川氏独り奮闘貴族院は憲法が変わらずとも廃止されるべき
- 七一、東京学生消費組合
 - 1 昭和一年二月五日創立一〇周年の歴史的背後に先生のご援助を感謝する動議可決
- 七二、頭山満
 - 1 年月一三日（進藤喜平太宛一御尽力相成其分一寸間に合はず就いては彼中二百丈ご持参下度百円は兄御用に供したく
- 七三、鶴見祐輔

- 1 昭和二二年二月七日昨年未意外な御奇禍に罹られ御難渋と推察小生昨年より熱海に居住
- 2 昭和二二年二月一五日近衛さんの最期往年を想起して気の毒に堪えず私の今日全くの喜劇半生を日米問題に捧げ戦時中は憲り調べ今度は追放という有様戦時中からの出版社インフレの波に沈まず検閲は厳重ながら時勢を論じなければ寛大旧稿を整理の上の出版は如何

- 七四、渡瀬良雄

- 1 昭和二六年九月一九日豚児儀御尊家の花園を手伝うこと光栄

- 七五、山室軍平

- 1 昭和二年八月一六日中央融和事業協会合同に関する挨拶

- 七六、山浦貫一

- 1 昭和年月日地上の「女」大した文章と感歎す

- 七七、安川敬一郎

- 1 昭和七年六月六日一進藤喜平太宛) 朝鮮鉄鋼の件これまで聞き及びし申すべからずものの如し兄弟坑山に來り兩三日後御書御了知下被度

- 七八、吉田絃二郎

- 1 昭和三年一〇月七日信愛学院落成式欠席お詫び

- 七九、吉川英治

- 1 昭和二六年四月一七日有馬家文書に就き御垂教賜わり御礼

- 八〇、吉植庄亮

- 1 昭和一五年九月一七日農民農村代表を是非国政に参与せしむる事是非実現方願い度
- 2 昭和一五年九月一八日新体制本部長就任歓喜の至り昨日秋田県寒川村入り学農石川翁の遺跡訪問昭和維新に際して農民を新枢に画することあって然るべし

- 八一、結城豊太郎

- 1 年一〇月二日上海昌信病氣については大した事無之と存ずるも京子心痛濟生会病院川村医学士に見舞勇々診察せしむる事此上海丸にて神戸を出帆

- 八二、湯河元威

- 1 昭和二年一二月二〇日昨日の紀念式御出席御礼

- 八三、江洪杰

- 1 大正一一年月日今般岡田三郎助氏弟子張吟秋女史絵画室建築

- 八四、International des Epizooties

- 1 一九五八年一二月一三日(日本中央競馬会会長宛) 訪日中歓待御礼Thomas Dalling (FAO), R.Vittoz (OIE) 英文書翰

- 家族間獄中書翰

- 八五、有馬貞子

1 昭和二十一年一月二日四通のお便り同時に拝見胸ふさがる思い出来る限りの方法で留守致したく石井光次郎さんを留守中
にお願い快諾を得

- 2 昭和二十一年一月二三日御入所以来一か月余神経痛おいたわしく敗戦という結果をいらだたく思う手紙差入れ中々許されず
- 3 昭和二十一年二月四日第二回目のお手紙拝見義ちゃん面会にてお元気の様子伺い安心漢字と片カナの手紙で書くのは閉口申し
諸方面の方々へは遺憾なく手配済み石井・豊橋も立候補する様子
- 4 昭和二十一年二月六日日本日二月六日は四三回目の記念日別々に此日を迎えること悲運
- 5 昭和二十一年二月二四日神経痛お気の毒指令部の指令により文化協会は改組か解散になる見込み浮世は金融緊急令で混乱財産
まった後此の家を処分することになるか
- 6 昭和二十一年三月七日昨日ご入所以来三か月振りに逢えて嬉しく一安心本日一二信検閲の都合で遅れて入手
- 7 昭和二十一年三月一七日第一三信拝見ご返事の行き違いで大変ご立腹の由松前・井川・賀川諸氏に相談意見を聞き行動近日弁
の面会が許可される予定
- 8 昭和二十一年三月二七日昨二四日近藤・高橋両弁護士より報告を聞く近藤さんは岸さんの辩护人高橋さんは三輪さんの助手四
起訴発表とか落ち着かぬ気持ち婦人参政権を得て毎日ラジオの演説を聞き女は婦人候補者に投票するのが一番との放送を聞
く
- 9 昭和二十一年四月四日選挙も迫り情報は吉と出る松前氏東海大学に専心されたく辞表提出するが許可されず困惑の様子辩护人
との打合せいたしたく松前・井川・賀川氏のほか証人に願う方々ご希望如何義ちゃんは武者・志賀・加藤三氏を推薦
- 10 昭和二十一年四月二三日二〇日頃起訴又は釈放になるかと色々噂春さんを熱海に見舞う三等でも往復一七円新円では動けず
- 11 昭和二十一年四月二九日豊橋も上京家の件相談があり最悪の場合家宝以外の家具類売却することご承知の程
- 12 昭和二十一年五月一六日第一七信拝見煙草は中々入手できず万年筆・インクは次に差し入れトルストイ「人生読本」近々お
予定
- 13 昭和二十一年五月二九日第二三信拝受二四日の面会お元気そうで安心グレランの注射液と錠剤サム・クライマン弁護士を通
け出来る筈興亜同盟の件三輪さんに相談
- 14 昭和二十一年六月四日各務さんの友人で梅津さん辩护人ブレイクニン少佐来宅三輪・近藤・高橋さんとも面談
- 15 昭和二十一年六月一八日熱海の春さんを見舞う
- 16 昭和二十一年七月一〇日春さん一生を病魔と闘い死去二九日葬式遺言状の写し同封
- 17 昭和二十一年八月二日帝水からお見舞い鮭と缶詰届く皆様の親切に感謝
- 18 昭和二十一年八月二三日財産税問題は一〇月頃かと思案

• 八六、有馬頼春

- 1 昭和二〇年一月二九日人生四〇年はじめて餅のない正月か一宮の別荘佐々木前東拓総裁が入居
- 2 昭和二十一年一月七日三〇日になって餅入手元旦だけ紋服に着替え起床鉄道の制限で熱海も閑散変わって進駐軍で賑わう
- 3 昭和二十一年一月二六日足利さん二年ぶりに立ち寄る下川は故郷で豊橋の選挙運動を手伝っている模様
- 4 昭和二十一年二月一一日獄中便拝見喉の痛み近日中に手術

• 八七、有馬頼寧

- 1 昭和二〇年一月一八日（家族宛）部屋は五六号室二畳食事は栄養に配慮あり兵隊は厳格ながら親切アメリカは不正裁判は
期待自分は社会運動もやり此の結果は敗戦のお陰で協同組合運動も盛んとなり前半生の努力が報いられたと思う賀川・井
川・松前人になることを望む部落解放問題はマ元帥に喚起したい天皇の身代わりと思うと決心がつく近衛公の自刃の話伝わ
る公の気持ちは間違いだ公は平和愛好者だったこと強調したい
- 2 昭和二〇年一月二五日（家族宛）最大の苦闘は煙草煙草さえあれば文句なし調べが始まるが通訳は中国又は朝鮮の人日本

で不安マ司令部提出の帝水の事業報告入手希望

- 3 昭和二〇年一二月目（貞子宛）一五日付の手紙長文の為検閲通らず出せず一六日の午後差し入れの風呂敷包み受取家族の間の際貴女が来て欲しい
- 4 昭和二〇年月日（貞子宛）荻窪の家は自分の一生の家と願うが移転も止む得なし辞爵並びに位階勲等返上願ひ度く頼義に伝
- 5 昭和二一年一月一日（家族宛）神経痛のため不眠と苦痛拘置所内生活状況
- 6 昭和二一年一月八日（家族宛）神経痛治療の方法アメリカの科学で考えられぬか近衛公の死を聞き和歌数首添え
- 7 昭和二一年一月日（貞子宛）第七信岩手出身の堀田吉之助来室大仏次郎「雪崩」面白く読む手紙二五日受け取る秀雄・田中を得て石井光次郎に頼義の相談相手に願いたし
- 8 昭和二一年二月六日（家族宛）第九信本日手紙入手偶然にも第四回目の結婚記念日二月四、五日取調べあり二世の気持ち良聞いて呉れたこと感謝誤解や中傷のため罰せられるのは困る日本式遠慮は禁物頼義が私のこと書き指令部に提出したら案外了解さも
- 9 昭和二一年二月一六日（家族宛）第一〇信マッチマッチと明けても暮れてもマッチが欲しい日産の鮎川氏神経衰弱気味で心貞子宛）良い噂嬉しい取調べ二世の好意で私の社会運動のこと書いたもの受け取る結果はともかく読んで呉れるだけでも嬉しい
- 10 昭和二一年二月日（貞子宛）二月六日差入品受取マッチに歓声神経痛で入院の申請中弁護のこと宜しく
- 11 昭和二一年二月日（貞子宛）第一二信二七日の差入品受け取る『世界』創刊号から差入希望
- 12 昭和二一年三月日（貞子宛）第一三信入院手続きにつき家族の冷たい態度不満検事の調べ一度も無し暗中模索のまま起訴さか
- 13 昭和二一年三月日（貞子宛）第一四信八日付の手紙一三日入手子供を亡くした人の弔慰金島田繁太郎大將が立替えお宅へ届けること前便は境遇のため興奮を詫げる
- 14 昭和二一年三月日（貞子宛）第一五信借入金の利払いの件渋谷、秀雄らに相談のこと絹のパジャマ差入れ希望
- 15 昭和二一年三月日（貞子宛）第一六信何度か頼んだトルストイ「人生読本」と「新体制の原理」未入手頼義の「経営日白
- 16 昭和二一年四月二日（貞子宛）第一七信部屋に一人加わり夜具邪魔睡眠薬飲む
- 17 昭和二一年四月一六日（貞子宛）第一八信松岡氏病状相当悪く気の毒木戸君の煙草を分けて貰って露命をつなぐ
- 18 昭和二一年四月日（貞子宛）第一九信頼義から手厳しい手紙受取り心で泣く新原の行動に遺憾があれば処分されたし五月たら洋服の入れ替え小説が随筆の差し入れ願う大量の転室があり広田氏と同室
- 19 昭和二一年四月日（貞子宛）第二〇信健康状況
- 20 昭和二一年五月日（貞子宛）第二一信三〇日の発表をみて一息付く今度の通訳は親身不足
- 21 昭和二一年五月日（貞子宛）第二二信武者・志賀・加藤三氏のうち証人に立ってくだされば有り難く
- 22 昭和二一年五月一九日（貞子宛）第二三信煙草二〇本の配給があり落ち着く面会の許可が下りないのは何故
- 23 昭和二一年五月一九日（家族宛）釈放の人多しの噂に興奮
- 24 昭和二一年月日（貞子宛）第二四信二一、二二日検事の取り調べを受ける静かに時の来るのを待つ
- 25 昭和二一年六月四日（貞子宛）第二五信同室の町氏釈放帰宅あとは秩父宮同期の浦田氏と二人
- 26 昭和二一年六月一日（貞子宛）第二六信仲間がポツポツ釈放されること羨ましく思う頼義の仕事はどうか頼義の仕事の家の運命を支配する
- 27 昭和二一年六月日（貞子宛）第二八信三輪さんが見えると心待ちしたが見えず手紙書く二一日頼義来所暑さに閉口
- 28 昭和二一年七月二二日（貞子宛）第三二信八月一日から差入れの規定が変わりこちらから要求したもの以外は差入れ出来
- 29 昭和二一年八月一日（貞子宛）第三三信神経痛の痛み日本の特有の気候が原因のため外国の医師には見当つかぬ様子

- 30 昭和二一年八月六日（貞子宛）第三四信近頃釈放者が殆どなく不安古い小説を差入れ願いたく
 - 31 昭和二一年八月一三日（貞子宛）第三五信三輪氏来訪私の書物も読んで貰って気が楽になる頼義の仕事の件心配まだ頼義
なつたわけではない取返しのつかぬ様注意
 - 32 昭和二一年月日私の病気の件牧野伯に頼み菊友会側から甘露寺さんに宜しく依頼願いたし
 - 33 昭和二一年月日（貞子宛）皆の写真和歌の本差入れ願う
 - 34 昭和二一年月日（貞子宛）差入れ品要求書短歌一五首
 - 35 昭和二一年月二七日（貞子宛）賀川・井川・松前の三氏には厚情謝礼
- 八八、有馬頼義
 - 1 昭和二〇年一二月日誕生日祝辞
 - 2 昭和二一年一月一五日農村文化研究所予定通り進行雑誌『大地』を発行予定事務所を邸内に置き経済的に自立子供に信頼を
 - 3 昭和二一年二月一六日ご意見伺いたく一農文協につき指令部から解散のすすめ三月の総会で会長・理事の総退陣の気運研究
するしか方法なし一学農連盟の改組の件父上から西沢氏にご意見願度研究所の顧問には加藤武雄・藤森成吉他
 - 4 昭和二一年三月一五日母上宛第一三信に対して抗議する父上入所以来母上の苦勞を知れば母に対しこれ以上の失礼は許せず
言だけ信用されるのか以後私は手紙を止める無実を祈る
- 八九、足利惇氏
 - 1 昭和二〇年一二月三〇日拘留見舞
 - 2 昭和二〇年一二月日誕生日祝辞
 - 3 昭和二一年一月三日年賀
 - 4 昭和二一年六月一八日東海大学設立認可の件
- 九〇、足利澄子
 - 1 昭和二一年一月一五日家内近況
 - 2 昭和二一年四月八日久方振りて帰洛夫惇氏東海大学新設の文科を一任され上京中
 - 3 昭和二一年六月三日家内近況
- 九一、亀井正子
 - 1 昭和二一年五月九日家内近況
- 九二、亀井茲基
 - 1 昭和二一年五月四日近況
 - 2 昭和二一年月二二日近況
- 九三、斎藤齊
 - 1 昭和二一年一月一八日家内近況
 - 2 昭和二一年一月三〇日（保科正昭連名）寄書
 - 3 昭和二一年四月日家内近況
 - 4 昭和二一年五月七日家内近況
 - 5 昭和二一年五月日家内近況
 - 6 昭和二一年六月六日昨日弟の友人で梅津氏の弁護士ブレックニ少佐に面会
 - 7 昭和二一年六月七日前便でお知らせのようにブレックニ少佐何かと便宜あるものと思う

- 8 昭和二一年六月二八日頼春氏逝去弔意
- 9 昭和二一年八月一日昨日委員長報告を無事終了
- 10 昭和二一年月日家内近況

- 九四、斎藤百子
 - 1 昭和二一年一月一五日元賀
 - 2 昭和二一年二月七日家内近況
 - 3 昭和二一年六月三〇日頼春氏逝去弔意

- 九五、斎藤静子
 - 1 昭和二一年七月一〇日家内近況

- 九六、渋谷健造
 - 1 昭和二一年一月二二日有馬家内事情報告
 - 2 昭和二一年三月一九日有馬家財産管理・封鎖預金等事務報告
 - 3 昭和二一年四月二二日有馬家臨時財産申告等家内事情報告
 - 4 昭和二一年七月二六日有馬家財産凍結の件報告
 - 5 昭和二一年八月一一日徳山へ送金の件財産税・封鎖預金等の概略報告
 - 6 昭和二一年八月一二日徳山の件保険金支払いの件等近況報告

- 九七、放送・著作等感想類書翰
 - 1 「時局と農村」講演放送に関する感想書翰昭和一四年一〇月二三通
 - 2 「村の栄」著作礼状昭和一四年一二月六通
 - 3 「国民生活の種取相」講演放送に関する感想書翰昭和一五年一月六通
 - 4 「立場を替えて」講演放送に関する感想書翰昭和一九年五月一一通
 - 5 「珍姓奇姓」読者の声昭和二六年一〇月・二通
 - 6 「子宝禍」（『改造』掲載）に関する感想書翰昭和二六年一〇月一通

書類の部

- 九八、日記
 - 1 日記大正二年一月四日一九月九日当用日記ペン書一冊
 - 2 日記大正八年一月一日一一二月三日当用日記ペン書一冊
 - 3 日記大正九年一月一日一一二月三日当用日記ペン書一冊
 - 4 日記大正一〇年一月一日一八月七日当用日記ペン書一冊
 - 5 日記大正一三年一月一日一一二月一九日当用日記ペン書一冊
 - 6 日記大正一五年一月一日一一月一二日当用日記ペン書一冊
 - 7 日記昭和三年一月一日一三月二日当用日記ペン書一冊
 - 8 日記昭和一〇年一月一日一昭和一二一年一二月三一日三年連用日記ペン書一冊
 - 9 日記昭和一三年一月一日一昭和一五年一二月三一日三年連用日記ペン書一冊
 - 10 日記昭和一六年一月一日一昭和一八年一二月三一日三年連用日記ペン書一冊

- 11 日記昭和一九年一月一日—二月三日当用日記ペン書一冊
 - 12 日記昭和二〇年三月一日—二月一日 昭和二年九月一日—九月九日ノートペン書一冊
 - 13 日記昭和二六年一月一日—二月三日当用日記ペン書一冊
 - 14 日記昭和二七年一月一日—二月三日当用日記ペン書一冊
 - 15 日記昭和二八年一月一日—昭和三〇年—二月三日三年連用日記ペン書一冊
 - 16 日記昭和三一年一月一日—二月三日 昭和三二年一月一日—一月五日当用日記ペン書一冊
- 九九、 巢鴨獄中歌日記
 - 1 千帆巢鴨歌日記昭和二〇年—二月—二日—昭和二年八月三日自筆ペン書一冊
 - 2 千帆巢鴨歌日記昭和二〇年—二月—二日—昭和二年八月三日謄写版一冊
- 一〇〇、 所感・意見書
 - 1 所感日誌自由日記ペン書一冊
 - 昭和—一年一月年頭所感・肉体と精神・賞罰について・我子のために・男女の問題・金の相談・文章と演説二月二・二六事件四月日本の将来と無産政党・皇室をわずらはし奉ること勿れ・貴族院改革問題七月日比谷の草取り事件九月マラソンの制覇と朝鮮の水害—〇月政局と近衛公昭和—二年二月所謂新党運動について・林内閣成立と新党の関係九月入閣について・閣僚の選考について—二月内閣改造問題・内閣総辞職の進言と集議制度昭和—二年一月重大声明の発表について九月妻の病気・改造とその後の近衛内閣・宇垣外相の辞職をめぐって—〇月農民文学作家との懇談会—一月新党問題—二月最高最低米価の決定について昭和—四年一月内閣更迭
 - 2 近衛文麿宛意見書草稿昭和—七年七月—七日便箋ペン書八枚
 - 一我が国の方針は親英米にもあらず親独伊にもあらず一度結びたる同盟の誓い信義を守るべし—ソ連に対し何らかの行動に出る事中立条約に違反するとの非難あると苟も同盟国の国利を及ぼすが如きは其の行動当然なるべし—対米関係重大の折交渉次第で一時的衝突を避くるの挙も止む得なし—北進南進は世界情勢により充分考慮されたし—今回の閣閣反対勢力の入閣は必要なし内相の人選・翼賛会陣容に特段の御留意を—今日の政治が国民と遊離しつつあるとの非難あり其の原因民心の知らざる閣僚にあり—貴下国民の人気高まりつつありこの際指導的政治を望み度
- 一〇一、 講演・挨拶草稿及び覚書
 - 1 地方官会議挨拶メモ昭和—三年五月七日ペン書用箋三枚
 - 翼賛会事業内容会と政府との関係会と議会との関係
 - 2 ラジオの夕べ講演覚書昭和—五年一月八日ペン書原稿用紙二枚
 - 国民生活の種々相
 - 3 優越感について昭和—五年三月—四日ペン書原稿用紙二枚
 - 部落解放運動に関連して於日比谷公会堂
 - 4 中央産業組合大会挨拶昭和—五年三月ペン書産業組合用紙—三枚
 - 農村荒廃を防ぎ生産力増強を強調
 - 5 時局講演草稿昭和—五年八月ペン書産業組合用紙四綴
 - 時局に処する農村問題
 - 6 時局講演昭和—五年九月—二日ペン書便箋七枚
 - 於軍人会館
 - 7 国民大会演説草稿昭和—五年—〇月—三日ペン書用箋—綴

- 高度国防国家の建設
- 8 時局講演放送昭和一五年一〇月三〇日ペン書用箋一綴
 - 新体制と旧体制内閣情報部主催
- 9 新体制運動講演草稿昭和一五年一〇月ペン書便箋六枚
 - 大政異賛について
- 10 新体制運動講演草稿昭和一五年一〇月ペン書便箋二〇枚
- 11 第一回中央協力会議開催について挨拶草稿昭和一五年一二月一六日ペン書便箋二〇枚
- 12 技術員賛講演会覚え昭和一六年二月二五日ペン書翼賛会用紙二枚
 - 国防国家建設と政治体制
- 13 隣組常会強化の夕べ講演要旨昭和一六年二月二六日翼賛会用紙四枚
- 14 都下大学専門学校卒業生壮行会演説要旨昭和一六年三月八日ペン書翼賛会用紙二綴
 - 人間一生の貸借関係について付学生数等参考メモ
- 15 大政翼賛会の歌発表会挨拶昭和二八年三月一五日翼賛会用紙ペン書二枚
- 16 大政翼賛会への告別の辞メモ昭和一六年三月二八日ペン書便箋二枚
 - 事務総長退任挨拶
- 17 「瑞穂踊り」「国の華」発表会挨拶昭和一六年六月二日ペン書二枚
- 18 産業組合同志会講演覚書昭和一六年八月一三日ペン書便箋五枚
 - 産業組合の進むべき方途について
- 19 東京高等農林学校講演覚書昭和一六年一二月二日ペン書便箋五枚
 - 現下の農林問題
- 20 全漁連講演会覚書昭和一六年一二月二八日ペン書用箋四枚
- 21 朝日奉公賞加藤完治推薦の辞昭和一七年一月二〇日謄写版八枚
 - 付朝日賞プログラム及び満蒙開拓義勇軍訓練所長加藤完治履歴書
- 22 経済道義宣揚運動講演覚書昭和一七年二月七日ペン書用箋三枚
- 23 厚生会・翼賛会農村婦人指導者講習会講演要旨メモ昭和一七年二月一日ペン書用紙三枚
 - 大東亜共栄圏における日本農業婦人としての自覚於千葉県君津郡滑河町
- 24 みずほ劇団公演挨拶昭和二一年二月二日ペン書便箋一枚
- 25 時局講演会講演会要旨昭和一七年二月二七日ペン書産業組合用紙三枚
 - 食糧問題と農村文化於茨城県江戸崎農業学校
- 26 同和奉公会講演メモ昭和一七年三月一四日ペン書用箋二枚
 - 大国民の心於大阪
- 27 産業組合愛知支部講演メモ昭和一七年三月一五日ペン書便箋一枚
 - 産業組合運動と時代の流れ
- 28 安城町産業組合講演メモ昭和一七年三月一五日ペン書便箋一枚
 - 農村青年の心構え
- 29 戦国国民栄養講座講演要旨昭和一七年三月二三日ペン書一綴
 - 家庭国民中央会主催
- 30 大東亜科学経済研究会発会式挨拶要旨昭和一七年三月二九日ペン書便箋二枚

付同研究会趣意書及び東京支局懇談会名簿

- 31 昭和一七年四月総選挙応援演説要旨昭和一七年四月ペン書便箋五枚
- 32 杉並区教育会総会講演要旨昭和一七年六月二〇日ペン書便箋六枚
- 33 みずほ劇団東京公演挨拶要旨昭和一七年六月二〇日ペン書便箋六枚
- 34 「村は山から」「みたから音頭」発表会挨拶昭和一七年六月二五日ペン書用箋六枚
 - 農村文化協会主催
- 35 板橋区講演会講演メモ昭和一七年七月二五日ペン書便箋一枚
- 36 文化実験村ラジオ放送原稿昭和一七年八月一四日ペン書原稿用紙二枚
 - 農山村の文化活動について
- 37 真木和泉例会講演メモ昭和一七年八月二〇日ペン書便箋一枚
 - 久留米水天宮真木和泉について
- 38 時局講演メモ昭和一七年八月二一日ペン書便箋一枚
 - 増産について於八王子
- 39 南方科学技術講座開講の辞昭和一七年九月一日ペン書用箋一二枚
 - 大東亜共栄圏における科学技術論
- 40 大阪府堺市・大崎浜井工場における演説メモ昭和一七年九月二四日、一〇月八日ペン書便箋二点
- 41 農村婦人指導者講習会講演要旨昭和一七年一〇月一三日ペン書便箋一枚
 - 学農連主催
- 42 東宮鉄夫大佐記念演劇公演会講演要旨昭和一七年一〇月二一日ペン書用箋六枚
 - 満州開拓の功労者東宮大佐
- 43 岐阜県恵那郡岩村町、中津町における講演メモ昭和一七年一〇月一二日、一十一月一日ペン書便箋一枚
- 44 綿業クラブ及び学士会クラブ講演メモ昭和一七年一十一月一二、一三日ペン書便箋二枚
- 45 長野県佐久農学校、三水北部農学校における講演メモ昭和一七年一十一月七、八日ペン書便箋一枚
- 46 長野県東筑摩郡農学校における講演メモ昭和一七年一十一月二二日ペン書便箋一枚
- 47 海軍火薬廠における講演メモ昭和一七年二月二八日ペン書用箋二枚
- 48 牟田工場講演覚書昭和一七年一二月八日ペン書用箋二枚
 - 銃後戦線と青年
- 49 農業教育専門学校講演メモ昭和一七年一二月九日ペン書用箋一枚
- 50 宮本武之輔追憶講演会講演要旨昭和一七年一二月二一日ペン書用箋二枚
 - 偉大なる技術者について
- 51 東京市会選挙応援演説要旨昭和一七年ペン書用箋五枚
- 52 海外同胞訓練所における講演要旨昭和一八年二月二日、四月二日、七月七日ペン書便箋三枚
 - 邦人の海外進出・宗教と文化
- 53 愛知県蒲郡農学校校友会における講演要旨昭和一八年二月七日ペン書便箋四枚
- 54 帝国水産統制株式会社社員初訓示要旨昭和一八年四月一六日ペン書原稿用紙六枚
- 55 東亜開発協会発会式挨拶要旨昭和一八年四月日ペン書原稿用紙六枚
- 56 熊本県東亜開発協会支部発会式挨拶要旨昭和一八年四月二四日ペン書便箋一枚
- 57 帝国水産技術者講習会講演覚書及び講習生名簿昭和一八年五月一三日ペン書用箋三枚

- 58 帝国水産統制株式会社披露宴挨拶覚書昭和一八年五月二六日ペン書便箋三枚
 - 59 杉並区青年学校. 国民学校教員集会講演メモ昭和一八年五月二九日ペン書便箋一枚
 - 60 台湾放送局における放送要旨昭和一八年六月一日ペン書便箋二枚
 - 大東亜戦争と台湾の位置
 - 61 台湾技術協力会講演メモ昭和一八年六月二日ペン書便箋二枚
 - 銃後戦線上の諸問題
 - 62 盛岡高等農林学校における講演要旨昭和一八年七月九日ペン書便箋二枚
 - 63 千葉県文化施設実験村における講演要旨昭和一八年七月二〇日ペン書便箋一枚
 - 64 時局講演覚書昭和一八年八月二日ペン書用箋一綴
 - 於山口県宇部市
 - 65 全国学農連盟水産講習会講義要旨昭和一八年十一月一六日ペン書用箋三枚
 - 我が国水産業の現状・水産行政の一考察
 - 66 水産関係放送座談会草稿昭和一九年四月一三日ペン書原稿用紙七枚
 - 67 東京農業大学記念日講演要旨昭和一九年五月一八日ペン書便箋四枚
 - 創意工夫について
 - 68 南洋水産協会講演要旨昭和一九年五月二七日ペン書用箋六枚
 - 戦争と水害について
 - 69 帝水隣組挨拶メモ昭和一九年六月二四日ペン書便箋一枚
 - 70 農文協における挨拶要旨昭和一九年七月一日ペン書帝水用箋一枚
 - 71 静岡県伊東高等女学校講演メモ昭和一九年七月六日ペン書便箋一枚
 - 人として女として
 - 72 東京都青年師範学校講演覚書昭和一九年一二月三日ペン書便箋一枚
 - 73 技術者協会講演会演説草稿及び原稿昭和一九年ペン書便箋二綴
 - 科学技術の戦力化と政治の科学化於軍人会館
 - 74 食糧生産と農村婦人の力新聞談話要旨昭和一九年ペン書便箋八枚
 - 75 南方派遣員歓迎会挨拶メモ南方派遣員名簿及び勤務地一覧年月不明三点
- 一〇二、著作原稿類戦前期
 - 1 農民文学への関心草稿ペン書野紙四枚
 - 「農政」昭和一四年二月号に掲載
 - 2 講演について昭和一七年一二月ペン書野紙四枚
 - 「有声録」（昭和一八年刊）に掲載
 - 3 日本水産業の現状昭和一七年ペン書帝水用紙八枚
 - 4 日本に於ける水産の現在と将来について昭和一七年ペン書ノート一冊
 - 5 生活の随筆昭和一八年一〇月ペン書原稿用紙九枚
 - 6 科学技術と文芸についてペン書原稿用紙一枚
 - 「技術評論」昭和一九年一月号に掲載巻頭言大東亜戦争三周年を迎えて
 - 7 技術者の立場から昭和一九年四月ペン書原稿用紙六枚
 - 8 「見・聞・読」

- イ 其の一〇〇「農村文化」昭和一八年連載記事切り抜き一括
 - ロ 其の一六一一九原稿昭和一九年ペン書原稿用紙五綴
 - 9 貴族院議長をめぐって昭和一九年ペン書原稿用紙八枚
 - 10 生活は生産である―戦時下の食糧問題―年月不明ペン書原稿用紙八枚
 - 11 老鶏の生む卵は古いか年月不明ペン書原稿用紙八枚
 - 12 広汎化する雑農現象メモ年月不明ペン書便箋三枚
 - 13 魚籠其の三年月不明ペン書原稿用紙二枚
 - 14 草籠其の六年月不明ペン書原稿用紙一枚
 - 15 草籠其の八年月不明ペン書原稿用紙一四枚
 - 16 心境を語る年月不明ペン書文春用紙九枚
 - 17 神経痛と注射、医者の不養生年月不明ペン書便箋四枚
 - 18 一つの思い出年月不明ペン書原稿用紙六枚
 - 19 人の心年月不明ペン書罫紙三枚
- 一〇三、著作原稿類戦後期
 - 1 巢鴨と戯歌二一六首昭和二〇年一月二日―昭和二一年八月二九日ペン書罫紙一綴
 - 文芸春秋編集部宛
 - 2 金・頭・女―政界思出咄ペン書三綴
 - 「地上」昭和二五年三月―五月号に掲載
 - 3 税金完納費について六老生昭和二五年ペン書原稿用紙二枚
 - 4 子宝禍昭和二六年
 - イ ペン書原稿用紙一〇枚「改造」昭和二六年九月号に掲載の一部
 - ロ 執筆参考資料太平記他抜書ペン書八綴
 - 5 荻窪カイ談昭和二七年ペン書原稿用紙八枚
 - 木舎幾三郎（政界往来社）宛封書入り
 - 6 赤穂事件雑稿草稿昭和二七年ペン書罫紙一〇綴
 - 7 赤穂事件雑稿其の一―五原稿昭和二七年ペン書原稿用紙五綴
 - 8 人の印象を語る―三編昭和二七年ペン書原稿用紙一三綴
 - 「人物往来」昭和二七年六、七月号に一部掲載
 - 9 これは愚案かペン書原稿用紙五枚
 - 「経営実務」昭和二八年三月号に掲載
 - 10 農民を考える考える農民ペン書原稿用紙一枚
 - 「農民の友」昭和二八年五月号巻頭言掲載草稿
 - 11 夢のような話ペン書原稿用紙三枚
 - 「農業日本」昭和二八年九月号掲載
 - 12 序にかえてペン書原稿用紙四枚
 - 「翼養国民運動史」序文昭和二八年
 - 13 七〇年の回想昭和二八年ペン書朱筆入り原稿原稿用紙
 - イ 第一章一綴

- 口 第二章一綴
- 八 第三章一綴
- 二 第四章二綴
- ホ 第五章二綴
- ヘ 第六章一綴
- ト 第七章一綴
- チ 第八章一綴
- 14 宣伝広告・農協に義倉を昭和二八年ペン書原稿用紙九枚
- 15 随想政界のれん街一二編年月不明ペン書原稿用紙一二綴
 - 政界のれん街とスポーツ・死刑廃止について・反省を要するものは誰か・新貴族の登場・遺言状・必ず隣あり・小売
り商と百貨店・競馬界入門記・続競馬界入門記・大名の末裔・人間と動物
- 16 農民党是非年月不明ペン書原稿用紙二枚
- 17 夢に描く農民党―農民政治力結集の問題点―年月不明ペン書「農民」原稿用紙四枚
- 18 自伝執筆メモ年譜草稿等一袋
- 19 創作類メモ一袋
- 20 著作目録覚え三綴
- 21 草稿・覚書等断片一括
- 一〇四、著作所収雑誌・新聞記事
 - 1 「同愛」（同愛会本部）第一号―第一〇号合綴一冊
 - 一号 愛に満てる世を望みて大正一一年二月
 - 二号 総ての人の握手大正一一年八月
 - 三号、四号 杖の後（1）（2）大正一一年一二月、大正一二年四月
 - 六号 同愛会の趣旨について大正一二年八月
 - 七号 大震災に際会して大正一二年一二月
 - 八号 第四年を迎ふるに際して大正一三年一月
 - 九号 都会を呪ふ大正一三年二月
 - 一〇号 華族階級と政治的特権大正一三年三月
 - 2 「アサヒグラフ」連作小説平民的貴公子第一―一九回大正一五年一〇月―一二月記事切抜き合綴一冊
 - 第二回憎悪から愛着へ（有馬頼寧一大正一五年一〇月二七日）
 - 3 「日本評論」（日本評論新社）一四巻三号一冊
 - 息子の旅昭和一四年三月号
 - 4 「戦時下の国民生活」朝日新聞社編刊昭和一三年九月一冊
 - 人的資源を護れ所収
 - 5 「現代」（大日本雄弁会講談社）一四巻二号、二一巻一号二冊
 - 有馬農林大臣縦横談昭和一三年一二月号
 - 文学と政治昭和一五年新年号
 - 6 「農政」（中央農村協議会）一卷二号―七号七冊
 - 無電庵雑記農民文学への関心昭和一四年二月号

- 無雷庵雑記朝鮮海峡のトンネル昭和一四年三月号
- 無電庵雑記農民の体位と栄養昭和一四年四月号
- 無雷庵雑記都市計画より国土計画へ昭和一四年五月号
- 無畜庵雑記土を侮るものは悔ゆべし昭和一四年六月号
- 無雷庵雑記都人よ土に親しめ昭和一四年七月号
- 7 「産業組合」(産業組合中央会) 四一二号—四一八号
 - 理想を目指して昭和一五年二月号
 - 保険経営と共済制度昭和一五年三月号
 - 事業と精神昭和一五年四月号
 - 何を学ぶべきか昭和一五年六月号
 - 新政治体制と産業組合昭和一五年七月号
 - 岐路に立つ昭和一五年八月号
- 8 「東京と福岡」東京と福岡社切抜き二枚
 - 東京から久留米へ昭和二六年五月一日付
 - 同郷可相親事昭和二六年一二月一〇日付
- 9 「図書新聞」昭和二七年六月二三日付切抜き二枚
 - 「近衛文麿」矢部貞治著(弘文堂刊)書評
- 10 「日曜新聞」日曜新聞社昭和二七年六月二七日付切抜き一枚
 - 日曜随想政治と金
- 11 「日本農業新聞」昭和二七年一〇月一五日付一部
 - 随想協同組合の全国大会に寄す
- 12 「農林金融」五巻二号昭和二八年新年号一冊
 - 農地解放物語
- 13 「会報」(農林中央金庫旧友会)昭和二八年新年号一部
 - 随筆夢
- 14 「東信協」東京信用金庫昭和二八年一月号一冊
 - 銀行と商店街
- 15 「信用金庫」一巻七号昭和二八年一年号一冊
 - 随筆学生と金融
- 16 随筆類記事切抜き一六点(一括)
 - 選挙と姓名「農民新聞」昭和二八年五月二一日
 - 再建途上の日本と農協との類似点「農業協同組合」昭和二八年五月
 - 質について「協同金融」昭和二八年五月
 - 友をもつなら医者と弁護士「地上」昭和二八年六月
 - 道を探ねて「官技懇ニュース」昭和二八年六月、七月
 - 農協の政治活動「経営実務」昭和二八年八月
 - 夢のような話「農業日本」昭和二八年九月
 - 巢鴨の恩恵「農村」昭和二八年九月

自由党こそ幕府的存在か「地上」昭和二八年一一月

- 義倉「地上」昭和二八年一一月
- 正月を迎えて「国民の新聞」昭和二九年一月一日
- 新春趣味漫話「夕刊フクニチ」昭和二九年一月五日
- 異境の空に「家の光」昭和二九年三月
- 頭の働き「青淵」昭和二九年四月
- 老人独言「農業神奈川」昭和二九年一一月一日

• 一〇五、著作単行書

- 1 蛙の声日本教育者協会大正二年一一月一冊
- 2 議政壇上の叫び—有馬頼寧氏演説集—一七日本部昭和三年六月一冊
 - 第五〇・五一・五二議會（大正一三—一五年）
- 3 戦時下農村と革新政治農村研究社昭和一三年七月一冊
- 4 農人形岡倉書房昭和一三年一二月一冊
- 5 土を語る砂子屋書房昭和一四年二月一冊
- 6 有声録多摩書房昭和一八年三月一冊
- 7 銃後青年戦士に想う農山漁村文化協会昭和一八年七月一冊
- 8 花売爺全国農業出版昭和二八年八月一冊
- 9 七〇年の回顧創元社昭和二八年一二月一冊
 - 付、同刊行会趣意書及び内容パンフレット

• 一〇六、有馬頼寧関係記事

- 1 ひきつずき追放中「サン新聞」一九五一年八月三〇日一枚
 - 近衛と有馬大宅壮一「東京日日新聞」一九五一年七月二九日一枚
 - 花売り殿様「毎日グラフ」昭和二五年一一月二〇日一枚
 - 殿様有馬頼寧氏大いに語る昭和二七年八月五日「夕刊フクニチ」一枚
- 2 轍の跡—頼寧幼年時代—おつやさん述年月不明原稿用紙二八枚

• 一〇七、辞令有馬頼寧宛

- 1 叙勲三等瑞宝章昭和九年四月二九日賞勲局総裁下条康磨一通
- 2 任農林大臣昭和一二年六月四日内閣総理大臣近衛文磨一通
- 3 叙従三位昭和一二一年六月一五日宮内大臣松平恒雄一通
- 4 免農林大臣昭和一四年一月五日内閣総理大臣平沼騏一郎一通
- 5 叙正三位昭和三年一月九日内閣総理大臣石橋湛山一通
 - 授勲一等瑞宝章昭和三年一月九日内閣一通
- 6 追陞位一級昭和三年一月一四日内閣一通

• 一〇八、通知書類有馬頼寧宛

- 1 御下賜品通知昭和一三年六月七日百武三郎侍従長一通
- 2 御下賜品通知昭和一三年七月一九日百武三郎侍従長一通
- 3 産業組合中央金庫特別融通損失審査会委員手当の件昭和一四年一二月二六日農林省一枚

• 一〇九、時局関係書類

- 1 時局に対する国民の覚悟近衛総理演説昭和二年九月一日
 - 国民再編成についての山崎靖純の意見他メモ原稿用紙七枚
- 2 満州農業移民入植図200分の一満州拓殖委員会事務局昭和三年三月一〇日一枚
- 3 我国の戦時経済と其の将来高橋亀吉述「新日本同盟会報」昭和三年四月号一部
- 4 フィラデルフィヤ会議関係書類昭和五年二月二七日—二九日
 - スタンレー・ジョーンズ他宛賀川豊彦電文「太平洋平和の危機を訴える」和・英文タイプ印刷一綴
 - 賀川豊彦宛デューレス他電報訳文貴下の提案に日本政府保証ありやタイプ印刷一枚
 - 東亜問題解決策要綱和・英文タイプ印刷一綴
- 5 戦時食糧品特に青果物配給統制に関する陳情書昭和六年一二月活版一綴
 - 神戸市議会宛神戸海陸物産問屋業連合会
- 6 第八回農山村漁村指導者修練講習会時間表昭和七年三月二日活版一枚
 - 全国学農連盟
- 7 戦時国民栄養講座趣旨書昭和七年三月二日活版一枚
 - 家庭国民食中央会
- 8 橋本欣五郎意見書東条首相宛昭和九年四月写ペン書原稿用紙一五枚
 - 国家の性格は生産統帥国家たることこの一点に集結するもの即ち我が国の軍力なり
- 9 食糧関係者懇談会資料
 - 総理大臣招待懇談会名簿昭和九年一〇月二〇日騰写版一枚
 - 水産食糧の生産並びに集荷配給機構整備案昭和九年七月一日タイプ印刷一綴
 - 水産労務対策中央水産業会タイプ印刷一綴
 - 水産行政将来の対策ペン書一綴
- 10 農村労力問題と勤労奉仕について年月不明写ペン書四枚
- 11 大東亜戦完勝の方途時事同盟案年月不明写ペン書一枚
- 12 ソ連邦近状報告一九四三年騰写版一綴
- 13 時局に関する記事筆写年月不明一綴
- 14 覚書該当者としての指定の解除に関する件内閣総理大臣昭和七年三月一九日活版一枚
- 15 第三回参議院議員選挙当選者出身分野別議員名他有馬メモ入り昭和八年四月二八日一綴
- 16 昭和八年衆参両院議員選挙関係新聞昭和八年四月七部

• 一一〇、その他の書類

- 1 華族令明治一七年七月七日活版一綴
- 2 北原泰作直訴事件新聞記事切抜昭和二年一一月一綴
- 3 平野力三借用書有馬頼寧宛昭和三年六月六日一通
- 4 鮎川金次郎選挙違反事件新聞記事切抜昭和三四年一〇月五号
- 5 近衛公の変節広瀬健一写年月不明原稿用紙二綴
- 6 大逆事件関係者書翰集獄中消息筆写ノート一冊
 - 幸徳秋水・菅野須賀・新村忠男・大石誠之助・内田愚童・森近運平・松尾卯一太・坂本清馬・高木顕明・岡林寅松・

- 一一一、名簿・芳名録
 - 1 農民文学懇話会会員名簿昭和一四年四月自筆署名入り一冊
 - 2 農林中央金庫新旧役員名簿昭和二六年一二月一日現在謄写版三綴
 - 3 有馬頼寧追放解除祝賀会芳名録昭和二七年四月一七日於丸ノ内常盤家一冊
 - 4 献碑志故有馬公遺徳追慕記念碑建立芳名録在京久留米同郷会昭和三二年一二月二日一冊
 - 5 有馬頼寧追悼会芳名録昭和三四年一〇月一冊

- 一一二、有馬頼寧著作参考資料類
 - 1 「東下りと京下り」参考資料「日本地理大系」他抜書ペン書一九綴
 - 2 福本日南「元禄快挙録」抜書一括
 - 3 キュウリー夫人・原随園「戦争と歴史」・小倉清太郎「ボルネオ紀行」抜書三綴
 - 4 年鑑類時事重要事項抜書大正一三年一昭和一六年一括
 - 5 信用組合資金状況統計昭和一九年三月現在一枚
 - 6 有馬頼義「随想」抜書ペン書原稿用紙二枚
 - 7 新聞切抜集昭和一八年六、七月一冊
 - 8 新聞切抜集昭和二七年四月一昭和二八年三月一冊
 - 9 新聞切抜集昭和二八年三月一七月一冊
 - 10 新聞切抜集昭和二八年八月一一二月一冊
 - 11 新聞切抜集昭和二九年一月一六月一冊

- 一一三、有馬家関係書類
 - 1 夫婦間二成立シタル契約証書明治四五年三月五日作成墨書一綴
 - 契約本人川北保五郎被契約人有馬すゞ立合人有馬まさ
 - 2 有馬農村問題研究所事務日誌大正一三年六月二日一一一月一六日ペン書一冊
 - 3 桂広太郎婚姻特別調査報告書人事興信所昭和九年九月二日二日罫紙二枚
 - 有馬家執事宛
 - 4 有馬頼義・千代子結婚条件覚え有馬頼寧メモ昭和一八年ペン書罫紙一枚
 - 5 有馬家日記
 - イ 有馬家奥日記（小石川）明治三五年九月一五日一明治三六年七月一四日墨書一冊
 - ロ 男爵有馬家日誌大正四年一月一日一一二月三一日墨書・ペン書罫紙一綴
 - ハ 男爵有馬家日誌大正一五年一月一日一一二月三一日墨書・ペン書罫紙一綴
 - 6 有馬家給料付証（青山）明治四五年一〇月一大正五年一二月墨書一冊
 - 7 有馬家蔵書目録
 - イ 有馬家修史所蔵書目録壹伯爵有馬家修史所用筆ペン書一綴
 - 昭和四年調査昭和一一年調査
 - ロ 有馬家修史所蔵書目録貳伯爵有馬家修史所用筆ペン書一綴
 - 昭和四年調査続
 - 8 有馬家家範付家則

- イ 家範明治一三年九月制定活版
 - 家蔵職務規定他明治三五年一二月一二日制定活版
 - 服務規定・給与規則大正八年二月一日改正墨書合一綴
 - ロ 家職服務細則謄写版一綴
 - 9 伯爵有馬家予算書
 - イ 昭和二年度総決算書謄写版一五丁一綴
 - ロ 昭和三年度総決算書謄写版八丁一綴
 - 10 昭和九年正月用注文覚え昭和八年一二月罫紙ペン書一綴
 - 11 新年諸飾り諸献立覚え昭和四年一月改正罫紙ペン書一綴
 - 12 年中行事附写真帖庶務課伯爵有馬家用箋墨書二四丁
 - 13 有馬記念館運営委員会第六回議事録昭和二年二月一二日謄写版一綴
 - 展示品について
 - 14 刀を鎌にかえて八十年久留米開墾八十周年記念事業委員会昭和三年一二月一一日謄写版一冊
 - 15 伯爵有馬家世譜一覽活版一枚
 - 16 大慈公義源公御事跡略有馬秀雄著明治四五年三月二七日一冊
 - 17 贈従三位有馬豊氏卿略伝有馬秀雄著昭和六年四月一冊
 - 18 有馬家粉議頓末「東京日日新聞」明治二一年六月二日附録一冊
 - 19 明治維新久留米士族録高取調帳原稿用紙一綴
 - 20 地方落穂集天・人・地宝曆一三癸未年和三冊
 - 21 楽屋並芝居記録延享四年卯三月石田与右衛門墨書一綴
 - 於有馬家
 - 22 松平右近将監上州館林領百姓騒動顛末享保年度大正七年九月写墨書一綴
 - 23 西藩田租考上下天保八年丁酉正月伊地知季安静稿有馬農政研究所用紙合一綴
 - 24 農家益人の巻有馬農政研究所図書一綴
- 一一四、 図書
 - 1 能久親王事蹟常陰会（東京借行社）明治四一年六月一冊
 - 2 故北白川宮殿下仙岳院駐泊に就いての夜話伊藤清次郎述仙台仙岳院昭和六年一〇月一部
 - 3 北白川宮能久親王殿下御事蹟台湾教育会昭和二年五月一冊
 - 4 北白川宮稻垣其外台湾経世新報社昭和五年六月一冊
 - 5 北白川宮永久王殿下中島武清水書房昭和十七年九月一冊
 - 6 北白川宮能久親王御年譜概略水戸部孚仙台仙岳院昭和十九年十一月一部
 - 7 満洲第七一八部隊黒竜小史昭和十八年一月二三日一冊
 - 8 総選挙概観朝日年鑑一九五三年版別冊付録一冊
- 有馬頼寧略年譜
 - 明治一七年（一八八四）
 - 一二月一七日旧久留米藩主頼万の長男として東京日本橋蠣殻町に生まる
 - 明治二〇年（一八八七）
 - 浅草橋場町に転居

- 明治二三年（一八九〇）
 - 学習院初等科入学
- 明治二九年（一八九六）
 - 学習院中等科入学
- 明治三六年（一九〇三）
 - 二月六日北白川宮能久親王二女貞子と結婚
 - 一二月長男頼秋生まる
- 明治三八年（一九〇五）
 - 長女静子生まる
- 明治三九年（一九〇六）
 - 学習院高等科一部卒業
 - 七月東京帝国大学農科大学入学
- 明治四〇年（一九〇七）
 - 次男頼春生まる
- 明治四一年（一九〇八）
 - 次女澄子生まる
- 明治四三年（一九一〇）
 - 八月東京帝国大学卒業卒論「英国の農業」
 - 米欧遊学
- 明治四四年（一九一一）
 - 九月帰国
 - 旅行中体験したポルトガル革命に関心を持ち、社会運動共鳴の契機となる
 - 十一月農商務省農政課に入り、農業経済・産業組合関係担当、農村各地を視察
- 大正元年（一九一二）
 - 三女愛子生まる、翌年死亡
- 大正四年（一九一五）
 - 四女正子生まる
 - この頃より神経痛に悩む
- 大正六年（一九一七）
 - 一二月農商務省退職
- 大正七年（一九一八）
 - 二月東京帝国大学農科大学附属農業教員養成所講師就任
 - 三男頼義生まる
 - この頃よりトルストイ・河上肇・賀川豊彦らに感銘を受け社会事業・社会運動・農民運動に共鳴、賀川豊彦らと交流
- 大正八年（一九一九）
 - 九月信愛学院（貧民子女対象）創設昭和六年廃校
 - 託児施設浅草同情園等貞子夫人とともに援助
- 大正九年（一九二〇）

- 十一月東京帝国大学農科大学附属農業教員養成所助教授就任
- 大正一〇年（一九二一）
 - 八月同愛会会長就任部落解放運動・水平運動に参加
- 大正一一年（一九二二）
 - 日本教育者協会創設会長就任
 - 雑誌『先駆』発行
- 大正一三年（一九二四）
 - 東京帝国大学農科大学附属農業教員養成所退職
 - 五月衆議院議員選挙（福岡五区）無所属で立候補、当選後政友会に入る
 - 六月有馬農村問題研究所及び日本農民学校を邸内に設立
 - この頃貴族院改革問題中心に主要都市で政談演説
 - 九月長男頼秋死去
- 大正一四年（一九二五）
 - 二月治安維持法反対民衆大会で演説
- 昭和二年（一九二七）
 - 三月父頼万死去
 - 四月爵位（伯爵）継承で衆議院議員辞職
- 昭和三年（一九二八）
 - 産業組合中央金庫理事就任
- 昭和四年（一九二九）
 - 八月貴族院伯爵議員補欠選挙当選、研究会所属
- 昭和五年（一九三〇）
 - 産業組合中央監事就任
- 昭和七年（一九三二）
 - 五月齋藤実内閣農林政務次官就任
 - 七月貴族院議員再選
- 昭和八年一一九三三）
 - 四月産業組合中央金庫第三代目理事長就任昭和一二年七月迄
- 昭和一〇年一一九三五）
 - 産業組合中央会会頭就任昭和一五年迄
- 昭和一一年一一九三六）
 - 夏新党結成について、中島知久平・後藤文夫・永井柳太郎らと会合於有馬邸” 荻窪会談”
- 昭和一二年一一九三七）
 - 七月第一次近衛内閣農林大臣就任
- 昭和一四年（一九三九）
 - 一月農林大臣辞任
 - 貴族院議員再選
 - 産業組合中央理事に復帰

昭和一五年（一九四〇）

- 一月全国産業組合役員共済組合委員長就任
- 八月新体制準備委員に任命される
- 農村青年政党組織・革農協を近衛に進言、実現せず
- 九月貴族院議員辞職
- 一〇月大政翼賛会発会、初代事務総長就任

○ 昭和二八年（一九四一）

- 三月大政翼賛会事務総長辞任新党運動に絡み進歩派とみられ攻撃を受ける以後政界から身を引く
- 一二月大政翼賛会解散
- 一二月帝国水産統制株式会社社長就任昭和二〇年一二月迄

○ 昭和一七年（一九四二）

- 四月東亜開発株式会社社長、技術協会会長就任

○ 昭和一八年（一九四三）

- 南日本漁業会社社長就任
- 夏台湾へ出張

○ 昭和二〇年（一九四五）

- 八王子へ疎開の蔵書空襲で焼失
- 九月日本社会党顧問の要請を固辞
- 一二月一日国民協同党結成の構想に参画
- 一二月二日A級戦犯容疑として巣鴨拘置所に入所、拘留二六二日その間神経痛に悩む

○ 昭和二一年（一九四六）

- 六月次男頼春死去
- 八月釈放される

○ 昭和二五年（一九五〇）

- この頃より花栽培で生活

○ 昭和二八年（一九五三）

- 四月社会党右派および産青連より衆議院議員立候補をすすめられたが辞退
- 五月風見章ら新政同志会と農民党結成を相談

○ 昭和三〇年（一九五五）

- 四月第二目日本中央競馬会理事長に就任

○ 昭和三二年（一九五七）

- 一月九日死去七二歳
- 一二月在京久留米同郷会により故有馬頼寧公遺徳追慕記念碑渋谷祥雲寺に建立

安達謙蔵関係文書

- 一、江木翼
 - 1 昭和五年一月一二日宮崎市長大迫元繁選挙に出馬希望
- 二、浜口雄幸

- 1 大正一三年六月二〇日大会切迫浜口総務の辞表御廻付宜敷御取計願う右の件は加藤高明総裁の諒解済み
- 2 大正七年七月二四日整理案刷本一部御手許に送付
- 3 昭和二年一月一九日（若槻礼次郎宛）病後疲労回復のため熱海にて静養本日出発各方面からの政局緩和運動あるも政府は絶対に受動的態度を厳守し早き機会に於て既定の方針の決定が肝要解散時には政府の態度につき即時声明書発表必要大事御決定の時は翰長より小生宛一報ありたし
- 4 昭和二年一月二六日過日は遠路御来訪拝謝小生転地療養一週間を經過疲労回復予定の如く進捗せず真鍋医師の意見をも聴取静養期間を二月一〇日迄延長致度右件御裁可手続に付ては中島秘書官より内務省秘書課へ相運可申若槻首相へは書面で挨拶御大葬儀迄には活動出来候様専念静養
- 5 昭和二年一月二六日（若槻礼次郎宛）議会停会三党首会見の経緯についての若槻意見拝承二三日に安達来訪政局に関する説明を聴取教育費問題は本年度は五百万円程度の増額で床次は満足静養期間真鍋医師の意見により二月一〇日迄延長手続依頼
- 6 昭和四年一二月一七日明日開会の人口食糧調査会人口部会に付き藤村義郎（朗）男爵より申入承諾御含ありたし人口部会議事段取り決定人口問題に関する常設調査機関設置の必要あり（藤村）此委員会は本年度一杯継続部会にて常設機関の具体案提案すべし（安達）と然るべく御応酬されたし
- 7 昭和五年八月二四日地方官更迭御詮議中加藤高明未亡人から依頼取りつぎ石井保台湾総督府警務局長転任願
- 8 年二月五日〇〇と提携聯盟の件聯立か閣外援助か篤と考究必要提携聯盟の大方針に向けて党内の空気の一定必要拝眉の上委しく打合せ可申上
- 9 年五月一六日沖繩の比嘉盛章氏より別紙来信御参考の為御廻送
- 10 年八月二七日明日の三派交渉会に臨んでの我方の態度についての小生の希望は町田加藤両氏に内話御聴取ありたし多忙にて拝眉の機を得ず
- 三、福沢桃介
 - 1 昭和五年一二月一六日国民新聞切抜を同封桃介の申す如いたずら書きとして御一笑すべからず不条理の事を行はば民政党は神罰を受けて崩壊するならん
- 四、井上準之助
 - 1 昭和五年一月二七日今夕浜口首相訪問のところ独断中止お詫び
 - 2 昭和六年一〇月九日来週の審議会に提出予定の財政整理案につき井上意見井上作成の審議会議案御覧ありたし地方財政整理の条項は文部省との協定まともらず次の審議会に提出の予定
 - 3 昭和年七月一日南画家楠田作巖に便宜供与依頼
 - 4 昭和年七月三日来たる九日の実業家招待会は中止日程取り消しありたし
 - 5 昭和年七月一三日田沢義舗を呼び寄せ御意見伝達青年館における立場を田沢引受ける意なし安達自ら田沢と面談ありたし
 - 6 昭和年一一月一一日中外商業新報記者伊元某紹介
- 五、犬養毅
 - 1 大正一四年一一月四日無線電信会社創立記念品寄贈礼状
- 六、一木喜徳郎
 - 1 昭和五年八月二七日小栗一雄氏奈良県知事拝命に付礼状
 - 2 昭和五年一一月七日桑原芳樹氏熱田神宮宮司転任に付礼状
- 七、伊沢多喜男

- 1 大正一四年五月一三日愛媛新報の現状に関する清水氏報告送附然るべく御配慮の程切望
- 2 大正一四年五月一五日愛媛新報株券所有の件憲政会勢力の維持発展のため必要愛媛新報と憲政会愛媛支部同身一体清水氏より事情聴取の上香川熊太郎の持株買収その他御配慮ありたし小生明後日出発帰任の筈
- 八、 樺山資英
 - 1 昭和四年八月一三日仙石（貢）氏満鉄総裁へ就任の由理事更迭の場合白男川讓介氏採用ありたし小橋（一太）文相へも依頼
- 九、 金子堅太郎
 - 1 昭和八年三月二日外交文教に関する意見は当局者に顧みられず文政審議会は無能無為の機関治安維持法憤慨に堪へず華府会議以来外交官其人を得ず外交機関の改造外交適任者の採用急務思想陰悪赤化伝播を救済するに付ては教育の根本的改革必要教育屋の会議では根治不可能大学高等学校の教授に斧鉞を加ふること急務学制改革必要
 - 2 昭和八年一月一三日八聖殿開殿式欠席詫状
 - 3 昭和五年五月一九日来る二二日に八聖殿へ参上
 - 4 昭和年一〇月二九日日本詩吟学院木村学風氏来訪日支事変出征将士に詩を発送する企て拙詩発送
- 一〇、 加藤高明
 - 1 大正五年一月一〇日早稲田御訪問問答詳細報道拝承如何落着すへきや関心に堪へざるも別段施策の法も無之傍観の外なし北海道のこと吉報希望に堪へず
 - 2 大正五年八月二日北海道選挙御予想通りに実現相祈る石川県田中より八百円返却の由北海道に関し支出の件異存なし当選者へ電報発送のこと宜敷御取計い相成度本日は娘と孫が滞在中の宮の下富士屋ホテルへ遊びに行き即日帰磯新聞紙に事々しく現はれたるに付一寸説明
 - 3 大正五年八月一二日芳書二通落手政況紛糾町田阪口二氏来訪政友会の宣言及原氏の演説に我党沈黙山隈両老間の交渉聞知する処なき今日何等宣言の致方も無之政府より何かする筋合来たる一五日帰京予定犬養も尚ほ未定
 - 4 大正五年八月一九日御書面拝見老人の談話振に関する評言態と保留昨日時事新報の記事驚入併し大体に於ては間違なし小生の名頻りに現はれ居るに小生沈黙を守らは慣れ合ひの仕事と世上にて見做すべく真相を語らは老侯の声価に影響及ぼすことも可有之小生態度に付相談致し度
 - 5 大正六年一〇月八日夜令嬢の衰弱同情を禁じ得ず横浜の支部発会式挙行東海大会のこと本部より通知なし問合せるつもり大津西川より本月二五日前に同地訪問要請岐阜のことと関■して考量する積り白井哲夫の旅行目的に関し御申間の趣了承
 - 6 大正九年九月二〇日東京朝日新聞報道によれば憲政会東北大会一〇月六日に仙台で開催とのこと小生目下地方行の期日を予定致し難し地方支部の決定ならば取消乞う病人は瀕死の状体二〇日間の忌中は地方出張出来ず
 - 7 大正一一年八月一一日四国の一部九州全部御巡回悉なく相済東北地方御出張御苦勞に存す清浦と面会暑気稍低下
 - 8 大正一一年一二月三日荒川氏の意見転送同人は平常党務に尽さず本部へも近寄らず此の如き屁理屈を述ふるは面白らざる仕方佐世保川副氏大病真に心配の次第なり
- 二、 桂太郎
 - 1 年四月七日加藤清正等に対する寄附金百五十円差出御査収ありたし幅其外持参某へ差遣の義差支相生す明日は御断り某へ御伝えられたし
- 三、 清浦奎吾
 - 1 明治二九年三月二八日来客中欠礼清国朝鮮国在留禁止法案修正の上貴族院可決
 - 2 大正四年二月二四日逐鹿戦期接近克堂在露国日本大使館通訳官上田仙太郎を選挙候補者に推薦

- 3 大正一四年八月三十一日熊本市長問題決定欣慰之至海底電信会社社長に内田嘉吉氏推挙
 - 4 昭和四年七月四日内閣組織敏活に成立中外共に評判好し善政希望財政経済立直し綱紀肅正思想善導急務外交は幣原なれば大丈夫帝国議会は解散を免れざるべし善政施設民望収攬熊本出身者の御取立乞ふ
 - 5 昭和六年九月五日今秋熊本県下に挙行予定の特別大演習後の賜饌参列者人員範囲頗る拡張勤王者の子孫に其の儀無之甚た遺憾御考慮を請ふ
 - 6 昭和六年一〇月四日在満安田鉄之助発送の別紙電報転送福田雅太郎氏にも発送済
 - 7 昭和七年一月四日老兄復党の件最も慎重に処せざれば却て事を誤り易し田中隆三山本達雄氏の斡旋に依り井上準之助氏を説破老生の手で桜内氏を動すとの説なる由田中と意見交換しては如何其橋渡しはいか様にも出来可申復党時機は議会解散総選挙前が時機なるべし事外は豊秋より御聴取請ふ
 - 8 昭和八年一二月一八日八聖殿竣成開殿式一三日は参殿できず諒恕を請ふ
 - 9 昭和一六年一〇月一日細川重賢侯事蹟に関し参考の為銀臺遺事細川重賢公と題する稿本借覧願
 - 10 年六月二七日御腰痛之由艱渋拝察鄙稿推敲「贈従位細川銀台重賢公」
 - 11 年一〇月二七日豊後人阿部正人紹介面談乞う同人は松田拓相とは相識之間柄
 - 12 年一二月一日明一二日閑話致度来臨請う佐々君其他四五名にも通知致置候（佐々友房宛清浦書翰明一二日午後四時より安達浅山其他熊本より上京の委員と官舎に於て小集閑話致度貴兄にも同志代議士御誘引被下ば絶幸）
 - 13 年一二月一日面談予定時間変更他の諸君へも御通知願ふ
- 一三、小泉策太郎
 - 1 昭和四年七月三日鮮かな御手際敬服井上蔵相にて財界の信用を繁ぎたる事は大成功降旗君気の毒千万慰勞の方法煩し度し明日午後帰京に付一度おはなし致度近日鎌倉にて邦英王を迎ふる約あり
 - 2 昭和四年七月二八日倉元代議士をして御内間を煩はし候静岡県官吏坂本義八免職問題同人を一昨年宮崎にて選挙に起たしめたる関係からも政変毎に追放されては気の毒又小生の威重をも減ずる次第念の為右の事情申入政局について一度懇談致度博物館復興は緊縮方針の訓示と矛盾するに似たれとも予定の進行御鞭撻不堪希望
 - 3 昭和五年五月九日月初帰京御高見を承った後鎌倉か修善寺へ引籠るつもり議会は解散の外なし互ひに赤心吐露相互了解の下に自己の方針を定むること順当
 - 4 昭和五年一二月八日前夜の暢談御意中大体諒解今日江木君と会談折衝は完全に成功小生の所謂第一案の上策も実現可能富田幹事長には添田飛雄太郎を差向江木に対しては隔意なく折衝するよう中野君に御伝へ可然今夕より三島地方へ出発震災地救済御含みありたし明後日頃西園寺公を訪問の予定
 - 5 昭和六年一月二日震災救護（小学校修理乃至復興再築）の事縦へ低利貸金を供するも更に負担を増すのみ老兄が即時賛意を表したることにより大に意を強ふせり御評定の結果御漏らし願度政府から提案必要政府がやらぬでは民政党は動かざるべく政友会だけの提案では実行に遠し貴族院提案は筋違い仙石等三長老の苟安運動笑止幣原の居据はりに持ち行く心算安達排斥は老人心理議会後の改造は潰滅の外なし江木君と懇談しては如何
 - 一四、河野広中
 - 1 大正年一二月二四日福島支部大会宣言一読抽象疎略に過ぐ江木と相談の上改造願う委細は中山氏より陳申
 - 一五、南次郎
 - 1 昭和八年一二月一四日昨一三日の八聖殿開殿式御挙行衷心より祝福上原勇作元帥葬儀之為欠礼
 - 2 昭和一一年八月一〇日熊本三聖殿の為め御出張御帰京祝福先日の御教示については今度朝鮮赴任と相成貴意に副えず不日拝姿委細申上へし

- 3 昭和一五年六月一三一〇日夜御発送の御懇書拝受明後二日は聖殿にて全国吟詠大会開催の由先約ありて欠席遺憾千万一〇日過に拝趨致度
- 4 昭和二年二月八日芳書拝受江界電会社社長に安川氏就任就任経緯承知致さず社長人選に就ては大野政務総監及び穂積殖産局長に委任済み御推挙の人は小生も承知同感老閣より大野氏に直接御話好都合
- 5 年六月四日昨夜安川氏と会合高橋氏一件同件につき本日筑紫熊七老兄と会談委細御聞取被下度高橋氏の事は安川氏に成算之見込あり内閣改造成功慶祝
- 一六、中野正剛
 - 1 昭和二年五月四日日本の政治の前途に関し不日参上御指教仰ぎ度政治の出鱈目清朝末時の如し鈴木正吾東方会加入
- 一七、野田卯太郎
 - 1 大正九年九月一九日病氣見舞礼状
- 一八、岡崎邦輔
 - 1 昭和二年三月三〇日議会最終日の紛擾痛歎に堪へず正副議長之辞職意外但し正副議長党籍離脱せざるは遺憾一昨年之正副議長党籍離脱将来永く其範に因らしめんとせるに蹂躪せられ帝国議会の為如何にも、心外閣下之御尽力により本党とも協議前年御同様之苦心を水泡に帰せしめざる様御尽力希望
 - 2 昭和四年七月三日内務大臣御就任欠礼わび状大命降下之日直ちに内閣組織せられたるは閣下之方寸より出候もの深く敬意を表す
 - 3 年二月一七日太田氏に此書を依頼京坂電車株式会社に関する件同社は小生と深き縁故あり水源問題小生郷里之事でもあり円満願意貫徹企望種々の方面より種々の妨害なしとせず同氏陳上御聞取被下度
 - 4 年一月五日春明閣一件にて八日頃面晤致し度
- 一九、尾崎行雄
 - 1 大正六年一二月二三日森田茂川崎克両氏を予算委員に希望
- 二〇、西園寺公望
 - 1 明治年月二三日（芳川顕正宛）安藤検事よりの電報あらば御漏願う
- 二一、斎藤実
 - 1 昭和四年五月三日もと咸鏡商道知事野中野太郎紹介御見識置願う
- 二二、佐藤鉄太郎
 - 1 昭和二年五月七日来二三日横浜八聖殿にて御開催の吟詠大会健康を害して居る為出席できず御寛恕を請う
- 二三、下岡忠治
 - 1 昭和一四年四月一一日尚順男貴族院議員当選方御高配を乞う昨日藤村（義朗）男に委曲申置候得共沖繩事情十分疎通し不居坪井九八郎男と伊江男との事甚不面白一層の御尽力切望
- 二四、品川弥二郎
 - 1 明治二九年八月二日尊大人病氣見舞長崎築港論一大事業は中々容易に成就するものに無之議長問題は国民協会がどちらに加担するか標目伊藤首相已代治等心痛伊藤山県会談顛末伊藤辞職談井上山県動静松方排斥論御、心配に及ばず板垣にはそんな力はなし国家の為め残念自由派の二知事をするに付薩一長一との御相伴はおもしろし

2 明治三〇年六月二八日（品川弥二郎宛平賀義美書翰）欠礼陳謝樟腦山之義に付本日田辺氏に面会住友家は台中県にて林紹堂藤田組と合資して台坂合同公司と称し樟腦製造に着手同社支配役棟居氏に山の模様調査の上御引受宜しからん

- 3 明治三〇年六月二九日台湾一件住友之顧問平賀義美より申来至急御返事乞う藤田住友合同して台湾にて樟腦事業に従事井上へも相談することになるべし
- 4 明治三〇年六月二九日製塩事業好結果葉袋氏一悦ひ帰京直に駿河に出張製塩事業に付誰か心得ある者を試み見分に御遣し如何紫藤翁いかにも遺憾千万馬匹調査同翁之後任に村上採用の件農務局長へ申遣別紙之通由来御用、心肝要樟腦之事は住友へ直に申遣置不遠確報あるべし田舎ものがクラブと申て中央の柱のぶらぶらして居る事は承知せず提灯持ちする事気の毒水戸の正義派四方八方より手を入れられ候得共動き不申おもしろし銘々持場を堅固にしてそろりと押す事肝要
- 5 明治三〇年八月二日二六日の芳書拝読右田氏来訪葉袋氏今朝来訪静岡製塩試験場立地三保の松原から遠州への移転提案台湾樟腦の事確答なし台南へ御内通時事乱麻土崩の感あり真正実業家の悪口は聞くに堪へず尾崎其外之人材勅任参事官に任命白根箱根で静養中佐々巴理からの帰朝期日御知らせ乞う老兄病状滋養治療第一大浦知事近況天草のこと伝言乞う
- 6 明治三〇年八月九日御依頼の件釜数制限真偽承知せず拓殖務へ問合する積り真の金もうけは長月日かかるもの健康第一白根専一箱根にて病氣青山博士来診老兄も知事も苦楽の境辺御注意ありたし
- 7 明治三〇年九月二三日製塩一件伊藤博文動静安場保和北海道長官就任宗像徳富高田九州勢大浦を排斥木村翁乃木台湾総督就任西郷従道兼任経済界日々困難白根発病曾禰の外資輸入論話たしかなり
- 8 明治三〇年一〇月二六日松方の黒田伊藤に対する入閣依頼伊藤拒絶松方留任説論松方辞職翻意可笑日本新聞大隈の態度推測伴食大臣の野村を逐い出すか又は大石を農商務大臣にするかしなければ内閣纏らず進歩党白根の健康回復大浦へ此事も伝言ありたし
- 9 明治三一年一〇月二六日朝鮮より無事帰熊上京之節目的を達し得させず御海怨乞う佐々上京時機相待貴族院連の意気これにて安心尾崎辞退皇室の為欽喜在野有志家の欽定憲法遵守希望種々の御困難推察御高励祈る鳥尾の王道弁論御一読ありたし犬声党も容易に分裂もすまじ賊魁大敗相違なし我党来春迄には勝声を発することを得べし
- 10 明治年三月二二日柏田に書通の依頼は詮なき事残念乍ら自然に任する之外策なし村上身上妻君一件文部俗論の本長倉後任とするも今日は手後れ遺憾

• 二五、 添田寿一

- 1 大正年九月二日ジャパン・アドヴァータイザー紙念の為呈上
- 2 年月一九日九鬼男爵小宴に付都合宜敷日取御教乞う

• 二六、 杉山茂丸

- 1 昭和七年七月二三日今朝大原義剛参り援助を蒙候由感謝の儀陳述小生方も感謝同情に不耐同人は政党の為めに終始し候者にて地方的の事も同人さへ御使用に相成ば小生共も同人を助ける外道無之宜敷御教使切望

• 二七、 高田早苗

- 1 昭和年九月二六日早稲田大学教授青柳篤恒氏子息熊本県特高課長青山一郎暫時御引見されたし

• 二八、 武富時敏

- 1 昭和四年六月三〇日政友内閣瓦解我党此難局を御引受相成べし政務官の銓衡に当りては佐賀県選出の福田五郎を参与官位に採用ありたし政務官可成各地方に配置必要佐賀県から一人の政務官も出さざる様では県地の人気を沮喪
- 2 昭和四年七月三日山田道兄を政務官に採用ありたし
- 3 昭和六年八月二二日病氣見舞果物御恵与礼状
- 4 年七月六日過日来御面働申上賢慮を煩せ恐縮執れも御採択感謝に不堪

• 二九、徳富猪一郎

- 1 大正八年八月二八日本日御帰朝の由新聞にて承知世界大戦後の御観察定めて有益ならん迂生床上岬吟尚史筆を把居此度は貴党独力にて天下を取られては奈何
- 2 大正一〇年一月二八日今次の議会は憲政会の天王山定めて妙々奇々の御軍略可有之青山会館につき援助請う鈴木富士弥大塊老人も乗気政友系の色彩濃厚なるは社会事業としては遠慮致すべし憲政会諸君の思召按排希望迂生明春帰郷予定国権党諸君へも其旨御沙汰願う
- 3 昭和三年二月六日山田敦一九の功を一簣に欠く御援助請う
- 4 昭和四年七月三日御栄任内相現内閣の長城頼有斯人浜口内閣をして第二の田中内閣たらしめさる様細心御戒慎偏に祈上ぐ平井某可然御拔擢被下度
- 5 昭和四年八月二七日思想問題に付ては文学博士鹿子木君尤も適當の示導伯学者の一人と存ず一度御引見ありたし鹿子木博士何とか東京方面に適當の位地なき乎小橋文相とも御相談被下度
- 6 昭和六年八月一三日横井氏是非もなし此上好時機を待つのみ [中欠] 省廃止などは全くの愚案賢明なる公は必らず宿算あらん
- 7 昭和六年八月一五日柳井直興氏私信転送如何に老閣の高情に感佩したる乎以て知る可也 (別紙) 病氣療養のため一時休職一〇月の地方官更迭の際復職との御内意感謝一意療養に専心すべし
- 8 昭和一三年九月二三日御下命の詩苦吟懐悩
- 9 昭和二〇年一月九日広尾尊邸より克堂御遺稿御寄贈奉謝史筆西南乱に到り熊本県のことなと根本史料にて叙したき処克翁の戦抱日記入手本懐の至曾て硝煙弾雨一斑の名で御軍談戦袍日記として再読今復た遺稿中にて三読因縁不淺空襲の騒ぎやら転宅やらにて資料紛乱書籍散逸御憐察被下度
- 10 昭和二一年八月二一日柳堤長江等二幅錦上御礼として秘蔵の墨別郵にて奉呈

• 三〇、頭山満

- 1 年四月二〇日望月宗三郎氏紹介同氏より府事情委細御聞取御尽力奉願

• 三一、宇垣一成

- 1 昭和六年八月九日京日 (京城日報力) 社長候補者の件現北海道長官池田氏を抜擢一昨日同氏に対して蹶起を促す此際是非同氏御割愛承諾ありたし老台よりも本人に御勧め乞う
- 2 昭和六年八月二三日芳墨拜諦半島統治之大局に鑑み御割愛感謝選挙の都合上一〇月上旬に発表とのこと止むなし夫れ迄は世間の晒物とならざる様取扱う積御含み置被下度

• 三二、渡辺千冬

- 1 昭和年八月一六日神社法に関する委員会委員に柳原義光伯推薦同伯は宗教制度調査会特別委員長五六議會貴族院宗教団体法特別委員長を歴任等の関係より適任者の一人

• 三三、山本達雄

- 1 昭和年一〇月二九日北海道の真珠貝養殖業者小林茂紀紹介
- 2 年二月一九日広島電気株式会社と山陰電気株式会社合併の件に付広島電気会社取締役稲葉実氏紹介

• 安達謙蔵略年譜

- 元治元年 (一八六四)
 - 一〇月二三日細川藩士安達二平の長男として熊本県下高田原の五十人組町に生まる

- 明治十一年（一八七八）
 - 私塾忍済学舎に入学友枝庄蔵に漢学を学ぶ
- 明治十六年（一八八三）
 - 佐々友房の推輓により済済婁に入学
- 明治十七年（一八八四）
 - 佐々にしたがって最初の上京
- 明治二十年（一八八七）
 - 佐々の斡旋により上京、ドイツ語を学ぶ
- 明治二十六年（一八九三）
 - 佐々に従って初めての朝鮮視察に赴く
- 明治二十七年（一八九四）
 - 九州日々新聞記者として日清戦争に従軍帰国の後大里八郎の娘雪子と結婚
 - 一月釜山において朝鮮時報社を創立井上馨公使の知遇を得て漢城新報社（のちの京城日報）を創立社長に就任
- 明治二十八年（一八九五）
 - 一月七日閔妃暗殺事件に関与
 - 一月三〇日三浦梧楼公使とともに首謀者の一人として広島未決監に収容
- 明治二十九年（一八九六）
 - 一月二〇日予審免訴、無罪の通告を受ける
 - 八月熊本国権党常務委員に就任
- 明治三十五年（一九〇二）
 - 八月一日衆議院議員選挙に当選（帝国党・以後十四回連続当選）
- 大正二年（一九一三）
 - 二月一四日桂太郎の立憲同志会結党に中央倶楽部を率いて参加（この間、大同倶楽部・中央倶楽部の組織に尽力）、同党幹事となる
- 大正三年（一九一四）
 - 七月二日第二次大隈内閣の外務参政官に就任
- 大正四年（一九一五）
 - 三月二五日第一二回総選挙で大勝し「選挙の神様」と呼ばれる
 - 五月一五日立憲同志会総務に就任
- 大正五年（一九一六）
 - 一月一〇日憲政会の結成に参加
 - 一月一〇日憲政会総務に就任
- 大正七年（一九一八）
 - 一月二〇日憲政会総務を辞任
- 大正一〇年（一九二一）
 - 一月二〇日憲政会総務に再任
- 大正一四年（一九二五）
 - 五月三〇日逓信大臣に就任

- 大正一五年（一九二六）
 - 一二月一六日内務大臣臨時代理に就任
- 昭和四年（一九二九）
 - 七月二日内務大臣に就任
- 昭和七年（一九三二）
 - 一二月二日中野正剛とともに国民同盟を結成総裁に就任
- 昭和一〇年（一九三五）
 - 一〇月一三日八聖殿の建立
 - 内閣審議会委員に就任
- 昭和一五年（一九四〇）
 - 七月二六日国民同盟を解党
 - 一〇月三日内閣参議に就任
- 昭和二三年（一九四八）
 - 八月二日熊本三賢堂にて死去八四歳